

平成29年度 学校経営計画に対する中間報告書

		石川県立羽咋工業高等学校		
重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が、ICT活用やAL型授業の推進等を掲げた本校の学習指導方針(スクールポリシー)のもと、学力スタンダード等を活用して、個人として教科としての授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、生徒の学力向上に努める。	① 思考力・表現力・コミュニケーション力の育成を目指し、効果的なICT活用やAL型授業を取り入れた研究授業や公開授業に取り組む。	授業改善に向けた研究授業や公開授業を、年間2回以上取り組んだ教師の割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満	1学期(7月)までに教諭・講師29名のうち実施した人数 2回: 0名(0%) 1回: 11名(38%) 0回: 18名(62%)	公開授業等の取組は年度初めの4月より実施した。教諭・講師29名のうち1学期に研究授業や公開授業を1回行った人数は11名であり、前年度同期と比較して実施が遅れている。今年度も昨年度に続き、アクティブ・ラーニング型の授業を全教科で進めており、授業参観の際には参観シートを活用して授業を評価し、研究協議会を実施し課題を共有している。また、iPadの導入もあり、映像資料やICT機器の積極的な活用を進めている。今後は2学期も引き続き、研究授業や公開授業等を促し授業改善への取組を働きかけ、学力向上への意識を高めていきたい。
	② 学力向上を図るために教科の宿題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	宿題・レポート・資格取得など、家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 6月末にアンケート調査 A: 30% B: 53% C: 16% D: 1% 評価: A・B合わせて83%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて83%となり、中間評価では判定基準の80%をクリアした。前年度同期とほぼ同じ結果であり、授業課題・レポート・資格取得の他、朝・昼・夜の補習等の成果であると捉えている。しかしながら、他の調査項目の家庭学習時間で「ほとんどしなかった」が37%であり、学校の補習に依存している。後期に多く実施される資格検定に向けた学習課題も活用しながら、家庭での自発的な学習を習慣づけるように働きかけ、学力向上につなげたい。
	③ 全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的にを行い、生徒に読書の習慣を身に付けさせる。	個人的な読書、授業や課題研究等の学習で、図書館の書籍を A おおいに利用している B ある程度利用している C あまり利用していない D 全く利用していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 25% B: 27% C: 19% D: 29% 評価: A・Bあわせて52%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて52%となり、中間評価では判断基準の50%をクリアした。2学期には1・2年生を対象として朝読書を計画しており、今後も生徒たちの図書館の書籍利用の増加が見込まれる。生徒の図書館利用促進及び書籍の貸出し数増加に向け、各教科とも連携をとりながら、今後も継続的に取り組んでいきたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、土曜授業や課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人以上 C 550人以上 D 550人未満	8月末の資格・検定試験合格者数を検証 8月末現在では386人 B評価(700人)に対する達成率55%	8月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は386人となり、前年度同期より21人減であるが判定基準であるB評価(700人以上)に対する現時点での達成率は55.1%であった。今年度より作成・配付した「資格・検定取得のすすめ」の冊子を利用して、資格・検定試験への意欲を高め、受験奨励及び補習の充実等により目標を達成するよう努力したい。また、ジュニアマイスターの申請者増加に向けた取組を各工学科や担任と連携して進めていきたい。
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で	ジュニアマイスターゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 80人以上 B 65人以上 C 50人以上 D 50人未満	前期(7月)の申請者数を検証 前期認定者数32人 B評価(65人)に対する達成率49%	前期の集計では、認定者合計は32人(ゴールド8人、シルバー24人)となり、前期認定者数としては、前年度同期の2倍となった。判定基準であるB評価に対する達成率は現時点で49%であった。2学期は資格・検定の受験機会も多く、合格に向けて生徒への働きかけと補習の充実により判定基準65人以上を達成したい。また、1・2年生に申請を促し、学校全体で「資格・検定のすすめ」を利用してしながら挑戦意識を高めて認定者数を増加させるとともに、前年度同様ゴールド特別表彰者が多数できるように、難易度の高い資格・検定の受験も奨励していきたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 42% B: 54% C: 4% D: 0% 評価: A・Bあわせて96%	生徒対象アンケート結果は、意識が高まった割合は、A・B合わせて96%となり、判定基準をクリアしている。前年度同期と比較してほぼ同数である。求人件数が増加しているなか、今年度の2・3年生の就職希望者は、共に80%前後に増加した。後期には、2年生のインターンシップも控え、意識はより高まると予想される。また、今年度も1・2年生を対象とした“地元で働く卒業生と語る会”や“先輩(大学生)と語る会”も計画している。今後も時期に見合った進路指導を行い、生徒の進路意識を高めていきたい。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図ると共に、授業でコミュニケーション力を付けさせる工夫を行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	朝学習や日頃の学習、面接指導などにより、基礎学力やコミュニケーション力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかなかった D 全くつかなかった	3年生を対象に 7月にアンケート調査 A: 43% B: 53% C: 4% D: 0% 評価: A・Bあわせて96%	生徒対象アンケート結果、実力がついた割合は、A・B合わせて96%となり、判定基準をクリアしている。前年度同期と比較してAが4%上昇した。平成27年度から全学年による朝学習を導入し、学年ごとに振り返り学習等のプリントを毎朝行ってきた。生徒も落ち着いて取り組んでおり、学校全体として習慣化している。2学期以降も、有意義な取組になるよう継続させていきたい。また、3年生の就職進学の進路実現に向けて、面接指導等、全教員協力の下、取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・資格取得について、保護者にいつ何が、いつ申込みする等の情報がなかなか伝わらない。受ける・受けないは保護者の選択権がなく、子どもに受験するように声をかけられないことが若干あり、子どもの意思に任されている部分もある。また電気科・建設造形科の受験する数が、やはり少ないような気がするし、電子機械科は十何個も持っているようで、少しばらばらなイメージがある。 ・「求人票一覧」を頂いて、就職先を選択する時に、親が関わった事がすごくうれしい。親の希望を持った上で子どもに選んでもらった。資料により親主導のアドバイスができるので良かった。 ・ジュニアマイスター顕彰者が多いのは、学校の1つの強みだと思う。羽咋工業は1つ上へ出ていると思うので、人間形成の基本も含めて、家庭と連携して子ども達を育てていって欲しい。 ・入学する時に工業に行けば就職も進学も可能なことを前提に入ってきた。学校長の言葉のように「進学もあります。できます。」という点は、やはりこれからもこれきちんと言うべきだと思う。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・見直しを持つことが大事であり、3年間でどういう試験がどの時期にあり、その中で今年1年間だったらどの資格がポイントということ、きちんと最初のところでガイダンスしているが、1回ではなかなか入っていかない現状もある。4月に配布した冊子「資格・検定取得のすすめ」の活用を進め、年間計画のようなものを作らせて、「資格カレンダー(後期用)」を作って配布もしたい。 ・「求人票一覧」の配布について、去年から議論をしながら、今年は保護者配布を実施した。その結果、3者面談等が比較的スムーズにできたという声も多く、今後も継続していきたい。 ・高校3年間で、挨拶や規範意識の醸成、ジュニアマイスター顕彰で自信を付けさせ、企業に入ってから向きにきちんとやっていく人材を育てたい。 ・昨年、中学校の保護者から「羽咋工業は進学もできるんですね。話が聞けてとても良かった。」と言われた。PRする時には「もちろん就職に強いが、大学でさらに勉強を進める子もいます。」など、幅広い可能性を示していきたい。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
2 心身ともに健康で逞しい(タフな)人づくりを目指し、部活動や生徒会活動の活性化に努めるとともに、規範意識を高めいじめを見逃さない学校づくりを努める。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰取組賞を獲得する。	高体連基準総合得点が A 75点以上 B 60点以上 C 50点以上 D 50点未満	県総体6月末集計結果 70.0点 評価: B	これまでの県総体の結果、現在の総合得点は70.0点で19位である。この結果は、剣道部男子団体、ヨット部男女の数々の優勝が総合得点獲得に大きな貢献となった。その他にもソフトテニス部男子団体3位、相撲部3位、柔道部男子団体・卓球部女子団体のベスト8が得点を獲得している。今後のラグビー部の最終結果を待ち、最終評価を行いたい。
	② 文化部の重複加入を奨励し、各部の取組に、生徒が積極的に活動し、より良い成果を収める。	文化部の活動と成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 39% B: 51% C: 9% D: 1% 評価: A・Bあわせて90%	文化部加入者対象アンケートの結果、前年度同期と比較して4%の減少であるが、A・B合わせ90%と多くの生徒が活動や成果に満足していると回答した。今後、文化部は9月末に行われる羽工祭や高文連各種行事等の発表の場を活かして、より成果が得られるよう生徒に働きかけていきたい。
	③ 生徒会を中心に行事への参画意識を高め、生徒が自主的に活動する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 46% B: 48% C: 5% D: 1% 評価: A・Bあわせて94%	生徒対象アンケートの結果、A・B合わせ94%の生徒が満足していると回答した。前年度同期と比較してほぼ同数である。今後も生徒会役員を中心とした全校生徒への働きかけや、日々の委員会活動、各行事の内容を更に充実させていきたい。また、9月末に行われる生徒会の最大行事である羽工祭では、全校生徒が満足できるように取り組んでいきたい。
	④ 規範意識、思いやりの心を育むため、規範意識週間などで「読み聞かせ・話し合い・発表」を行い、より良い道徳心を身につける。	本校の教育活動や規範意識週間により、規範意識やいじめ防止の意識が身についたか A 十分身についた B 少し身についた C あまり身につけていない D 全く身につけていない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 51% B: 46% C: 2% D: 1% 評価: A・Bあわせて97%	生徒対象アンケートの結果、「身についた(A・B)」と答えた生徒は97%(昨年同期91%)となり、判定基準(85%)を越えることができた。これは教育活動全般の指導に加え、規範意識週間での新しい取組である「全校発表会」がその一因であると考えられる。いじめ防止について全校に向けて堂々と発表する発表者と、真剣に聞き入る生徒達の間には、意識の共有が確実にみられた。後期も前期の取組を検証し、生徒の言動がより良く変容するよう取り組んでいきたい。
	⑤ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 43% B: 49% C: 7% D: 1% 評価: A・Bあわせて92%	生徒対象アンケート結果、A・B合わせて92%となり、判定基準の75%以上を大きく上回った。今回の結果に安心することなく取り組んでいきたい。また、2学期以降は残暑の厳しい季節から冬へと向かい、体調を崩しやすい時期となり、冬季にはインフルエンザの流行も予想されるので、生徒の健康に対する意識がさらに向上するよう努めたい。
3 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供やボランティア活動等を積極的にを行い、地域社会との連携を深める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、地域ボランティア活動や校外での一日一善運動を推奨する。	地域ボランティア活動や一日一善運動を通して社会貢献の大切さを理解しているか。 A 十分理解している B ある程度理解している C あまり理解していない D 全く理解していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 51% B: 46% C: 3% D: 0% 評価: A・Bあわせて97%	生徒対象アンケート結果、A・B合わせて97%の生徒が社会貢献の大切さを理解していると回答した。地域のボランティアや「一日一善運動」への意識の高さが読み取れる。今後は、日々の生活の中で実践できる生徒の育成を図らなければならない。生徒会活動・部活動・クラス活動の中で、具体的な取組を提案し、生徒の意欲を尊重し社会に貢献できる生徒を育てていきたい。
	② 環境保全のこれまでの取組を向上させ、ゴミ分別や環境保全が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	平均18点以上の教室が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	ISO委員により、6月に教室清掃を1週間調査(1日20点満点で評価)平均点が18点以上のクラスは、6クラス 67% 評価: D	7月に学校行事が多いため、6月に調査を行った。昨年度の最終評価で目標達成したクラスが5クラス(56%)であり、今回は6クラスとなった。全体の平均は18.2点であり、3クラスが目標とする18点に届かなかった。日頃からの清掃は社会人として重要なことであり、2学期以降も継続的にしっかりと清掃を行うことを学校全体で取り組めるよう、目標を達成できなかったクラスに不備点を指摘する等の働きかけをし、全クラスが目標達成できるようにしたい。
		環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 44% B: 46% C: 9% D: 1% 評価: A・B合わせて90%	生徒対象アンケート結果、A・B合わせて90%の生徒が環境保全に取り組んでいると回答した。90%は例年とほぼ同じ数値である。今後も継続して、環境保全とともに環境美化についても生徒の意識の高揚と実践力を培っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアについて、生徒たちが休日や登校時、帰宅後に、地域で何か活動を自発的にやるようになって行って欲しい。学校に来る時に空き缶を拾ってくる等でも良いと思う。ボランティアということは、先生方が号令を掛けてやるのではなく、それ以外でどれだけやったかということであり、それをちよつと褒めてやったり、拾いあげて公開してあげたりというようなPRができれば良い。</li> <li>保健指導の資料で、熱中症の予防で頂いた資料には教室へのエアコン設置について触れてあるが、どの様になっているのか教えて欲しい。</li> <li>防犯カメラについて、隣の羽咋高校に設置されたが、羽咋工業高校には設置しないのか。主要な1ヶ所に付けて、1週間レポートするもので30万とかになるが、やはり防犯カメラが付いていると、事故があったときにはきちつと対応して頂けるように思う。</li> <li>これだけ生徒も先生も頑張っている学校なので、何とか定員割れしないようにして欲しい。保護者の口コミやPTAの方の印象は、すごく影響が大きいと思う。新聞の折込チラシや私学がやっているYahoo Japanのトップページのバナー広告も有効かもしれない。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>休日は、部活動の練習があつて地域ボランティアは難しいが、地域から要望のあつた看板やごみステーション、模型などの「ものづくり」等で協力している。また、外部からの心の温まるお礼の電話などは、毎日の昼食時の校内放送で全校生徒に伝えている。今後もできる限り地域に貢献して行きたい。</li> <li>教室へのエアコン設置については、次年度の導入に向けて前向きに検討している。普通教室・特別教室・視聴覚室の設置について、11月の臨時PTA総会で承認を得たいと考えている。</li> <li>防犯カメラに関しては、能登高校の事件が起こり、県の予算がつくようになってきている。本校は広い敷地と多くの校舎があり、出入りできる所も大変多いため、今のところは具体的に考えていない。</li> <li>定員確保については、「羽工だより」を入学生の出身中学の1~3年生全員に配布しているが、今後は新聞折込も行つて地域の保護者に見て頂こうと考えている。また、中学生の保護者と中学校の先生方が意外と専門高校のことをよく知らないことが多くて、進路指導の弱さも感じるので、これからの「学校訪問」や中学校主催の「高校説明会」でしっかりと説明したい。</li> </ul>			